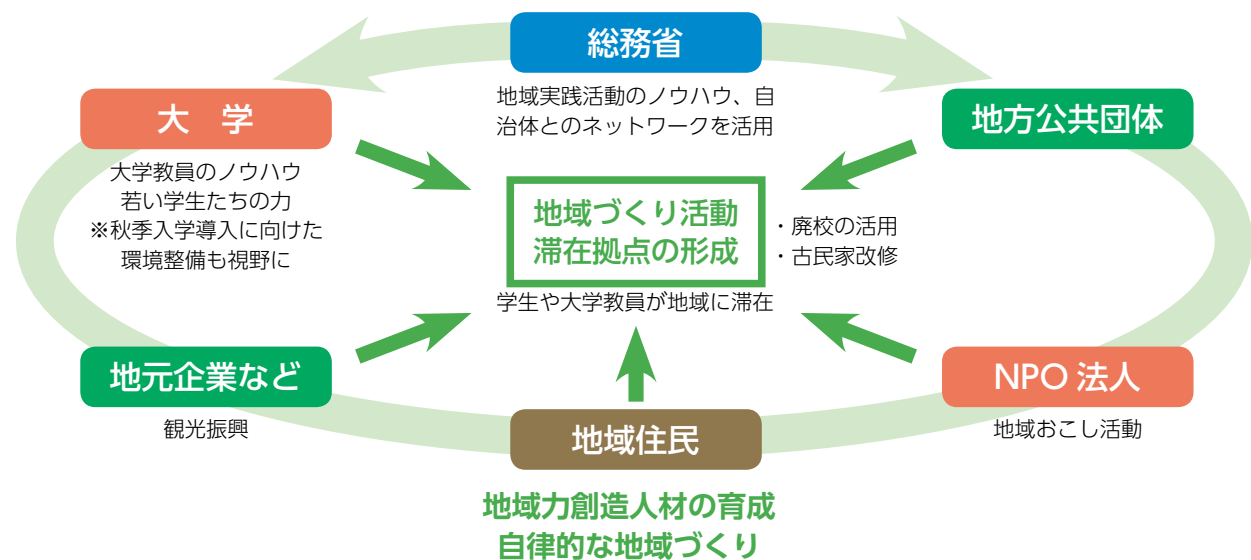


(図1)「域学連携」実践拠点形成モデル事業



(表2) 4つのコース

コース	①地域づくり人育成コース	②文化資源活用コース	③菊池ラボ構築コース	④農業資源活用コース
概要	フットパスを通じた人材育成	古民家再生、地域再生ワークショップ	まちづくり団体・大学・高校が自由に使える活動拠点づくり	安全・安心な農畜産物の生産推進
担当大学	九州看護福祉大学	九州大学、首都大学東京、熊本大学、熊本県立大学	九州大学、熊本大学、熊本県立大学	東海大学
担当高校	菊池女子高	菊池高校	菊池高校	菊池農業高校
担当団体 ★は代表	菊池市社会福祉協議会、★菊池・人づくり愛塾、菊池よりあい衆、NPO 法人きらり水源村	★菊池たてもの応援団、NPO 法人 21 世紀環境研究会	NPO 法人菊池まちづくり千年の風、★菊池養生詩塾	★菊池環境保全型農業研究会
行政担当課	企画振興課、商工観光課	企画振興課、生涯学習課	企画振興課	企画振興課、農林振興課
事業内容	地域の風景を楽しんで歩くフットパスを通して、地域活性化を担う人材の育成に取り組む。	古民家を学生や地元住民と一緒に修復し、古民家再生を学ぶ。雪野地区をモデルとして中山間集落の活性化に取り組む。	松倉邸を地域再生の拠点として、大学や高校、地域づくり団体が自由に活用できる体制をつくる。	安全・安心な農畜産物を安定供給させるために、生産技術の向上や流通拡大の方法を学ぶ。



雪野地区ワークショップに集まった地域住民と地域づくり団体、学生の皆さん

つどう・つなげる・つづける新しい協働のカタチ

域学連携

(表1)

参加団体
▼大学（6大学） 九州大学、熊本大学、熊本県立大学、九州看護福祉大学、東海大学、首都大学東京
▼高等学校（3校） 菊池高校、菊池農業高校、菊池女子高校
▼地域づくり団体（9団体） 菊池市社会福祉協議会、菊池・人づくり愛塾、菊池よりあい衆、NPO 法人菊池まちづくり千年の風、NPO 法人 21 世紀環境研究会、菊池たてもの応援団、菊池養生詩塾、菊池環境保全型農業研究会、NPO 法人きらり水源村

問い合わせ先 企画振興課地域振興係 ☎ 0968(25)7250

「域学連携」とは

域学の「域」は地域の意味で、「学」は大学を表しています。大学教員の知識と学生の行動力を活用し、地域住民や行政と協働で地域の再生に取り組む仕組みです（次ページ図1）。総務省が実施する全国のモデル事業（総務省「域学連携」実践拠点形成モデル事業）として昨年、採択を受けました。

事業のテーマは「つどう・つなげる・つづける 菊池ラボ事業」。大学と高校、そして地域づくり団体が参加し、実行委員会を立ち上げて取り組んでいます（表1）。事業内容は、大学や地域づくり団体の専門性を生かし、4つのコースを設定しました。（次ページ表2）

つどう・つなげる
つづける事業

住民・学生・行政が互いに連携し、地域の再生に取り組む「域学連携」事業がスタートしました。このモデル事業は現在、新たなまちづくりの手法として全国で期待されています。今回は菊池市版「域学連携」の取り組みを紹介します。

1 地域づくり人育成コース

フットパスで地域を元気に



迫間地区フットパス体験会

ありのままの農村や昔ながらの街並みを、そこに息づく人々の暮らしや歴史に思いをはせながら、ゆっくりと時間をかけて歩き体感する「フットパス」。新たな観光資源の一つとして注目を集めており、住民参加で地域の活性化につながる取り組みとしても期待されています。フットパスの意義を深く理解するため、先進地からノウハウを学びながら、地域の人と一緒に

既に候補地の区長会など地元の方々の協力を得て、いくつかの地域で模擬コースが設定されました。昨年12月から1月にかけて学生の皆さんも交えた体験会を実施しました。参加者の皆さんから「雄大な自然、美しい里山を満喫できた」といった声を聞くことができ、とても良い感触をつかんでいます。フットパスが地域活性化に有用と分かれば、今後市で推進していくための体制づくりを提案し、その実現に向けて働きかけていきます。そしてこの一連の活動そのものが、地域づくり人材の育成につながります。



菊池・人づくり愛塾
なかほら 代表 中原 洋さん

②文化資源活用コース

まちづくりの活動拠点を整備

私たちのコースでは、「旧松倉家住宅（国登録有形文化財）」の利用されていない南側部分を改装し、今後のまちづくり活動の拠点となるラボを、参加型ワークショップで整備しようという取り組みをしています。参加者は高校生・大学生・一般の人たちと幅広く、最初は清掃作業や不用品の運搬作業を行っていました。現在は内壁の下地を作り、仕上げに移る段階です。



多くの学生が改装作業に参加



菊池たてもの応援団
代表 松田公伸さん

参加者は古い民家の歴史や文化、構造などを学び、実際に建物に触れて楽しみながら拠点づくりを進めています。

大学生と一緒に集落再生

大学生が地域に入って地元の人々と一緒に地域の自慢の場所を歩いて回り、その魅力を写真などで記録し地図に落とししていきます。この地図を基に住民の皆さんと話し合いを重ね、言い伝えや歴史を学び、その魅力を再発見します。

この素材をフットパスなどの取り組みに活用しながら、地域活性化にどのようにつなげていくかを考えていきます。

第2回きくち文化資源・地域再生・創造都市ワークショップ

平成25年12月21日～23日の3日間、雪野地区を中心に第2回きくち文化資源・地域再生・創造都市ワークショップが開催されました。

ワークショップには域学連携事業に参加している大学のほか、久留米大学と熊本学園大学から多数の学生が参加し、地域の皆さんと一緒にさまざまな活動を展開しました。

滞在拠点の雪野地区公民館では、教員・学生が寝食を共にしながら地域課題の解決策などを検討。早朝から深夜まで多彩なプログラムが行われました。

今回のプログラムのメインと呼べるものが「雪野フットパスづくりワークショップ」。既に本市でも取り組みがスタートしているフットパスですが、雪野地区でも地元の魅力を生かしたコースができないかと、学生たちが野山を駆け回りました。

探検隊のように地区の魅力を探し歩くトランセクトウォーク、巨大地図にさまざまな発見や気付いたことを書き出して行くガリバーマップなどを作成。最終的

こんな活動もしています



若者から高齢者まで多くの人が参加し意見を交わしました

に二つのフットパスコースを提案し、地区の皆さんに発表しました。

会期中は、建築家で首都大学東京特任教授の青木 茂先生による菊池文化資源講演会をはじめ、菊池まちづくり道場、九州大学地域情報化研究会などさまざまなイベントもあり、内容盛りだくさんの充実したワークショップとなりました。

「3つの者」で地域再生

まちづくりには「よそ者・若者・ばか者」の「3つの者」が必要だといわれます。

地元の人が普段気にも留めない井手沿いの道も、「よそ者」から見れば心が洗われる癒やしの空間として魅力ある場所に映ります。

「若者」は、既存概念にとられない豊かな創造力と好奇心、そして行動力を持っています。

「ばか者」とは、地域を愛するが故に、我を忘れてまちおこしなどに夢中になる人のことを例えています。

この「3つの者」が集い、つながり、活動を続けることで、今までにない新たな地域おこしが始まると期待されています。先生の豊富な知識、学生のよそ者視点、若者の行動力で地域の魅力や歴史を再発見し、地域おこしに活用していきます。そうすることで住民が地域への愛着や誇りを取り戻していくきっかけにもなります。

③菊池ラボ構築コース

人々と共につくる活動拠点

文化資源活用コースが菊池ラボのハード面を整備するのに対し、私たちのコースではソフト面の構築に当たっています。

皆さんは「菊池ラボ」と聞いたとき、何を思い浮かべますか。ラボは「ラボラトリー」の略で、研究所、研究室といった意味があります。しかし、菊池ラボのかたちは決して一つに定まっているわけではありません。

もしかするとそれは、集会場



菊池養生詩塾
代表 佐藤忠文さん

や会議場、展示場や宿泊所なのかもしれません。菊池ラボをどう使い合うかは、これからここに集う人々と共につくり上げていくものだとは考えています。地域づくり、まちづくりに関わる多くの団体・個人は、このような拠点の必要性を感じてきました。人々が集い協働するためには、象徴的な場所が必要なのです。

そこで菊池ラボ構築コースでは、その場所のための運用計画、ルール、システムの構築を目標に活動を展開しています。できるだけ多くの人の参加を募りながら、計画やルールを見直す柔軟さを持ったコース運営を心掛けています。



活動拠点として整備中の旧松倉邸

市の農畜産物の可能性を探る

私たちのコースでは、安全・安心な農畜産物を提供するために、東海大学生と菊池農高生、菊池環境保全型農業研究会が共同で生産技術の向上や流通について学んでいます。

実際に先進的な取り組みを行っている現場を見て回り、生産者の生の声を聞くため、見学会を開催しています。袈裟尾区で水田ゴボウと水稻などを生産している村上活芳さんの農園で



菊池環境保全型農業研究会
代表 渡辺明人さん

は、有機栽培や減農薬栽培の取り組みを学習。日生野区で豚を放牧している武藤計臣さんの牧場では、手間暇を惜しまず高品質の豚肉を生産し、「走る豚」というネーミングで付加価値を生み出すといった独自の工夫を学びました。

専門的な意見や全国的な事例を学び、農業資源活用に関する理解を深めるためにワークショップも行っています。先日は有機農業の第一人者である東海大学の片野學教授を招き、市の農畜産物の可能性について意見を交わしました。今後も調査と研究を重ね、市の農畜産物の可能性を探っていきたいと考えています。



市の特産品「水田ゴボウ」の視察

事業報告会にお越しく下さい！

入場無料で申し込み不要です。気軽にお越しください。

と き 2月16日(日) 正午開場 午後1時開会

ところ 七城公民館

基調講演

演題 「あるものを生かす地域力創造～菊池域学連携事業の評価と課題～」

講師 桂川 忍さん（一般財団法人 地域活性化センター常務理事・前総務省自治財政局長）

地域再生に取り組む集落を募集します！

学生と一緒に地域再生に取り組む集落を募集します。

地域の魅力の発掘や地域の活性化、高齢化などの課題解決について学生と一緒に考えてみませんか。「よそ者の目、若者の目」を通じて、地域を見つめ直すきっかけにもなります。

詳しくは企画振興課地域振興係 ☎ 0968(25)7250 までお問い合わせください。